

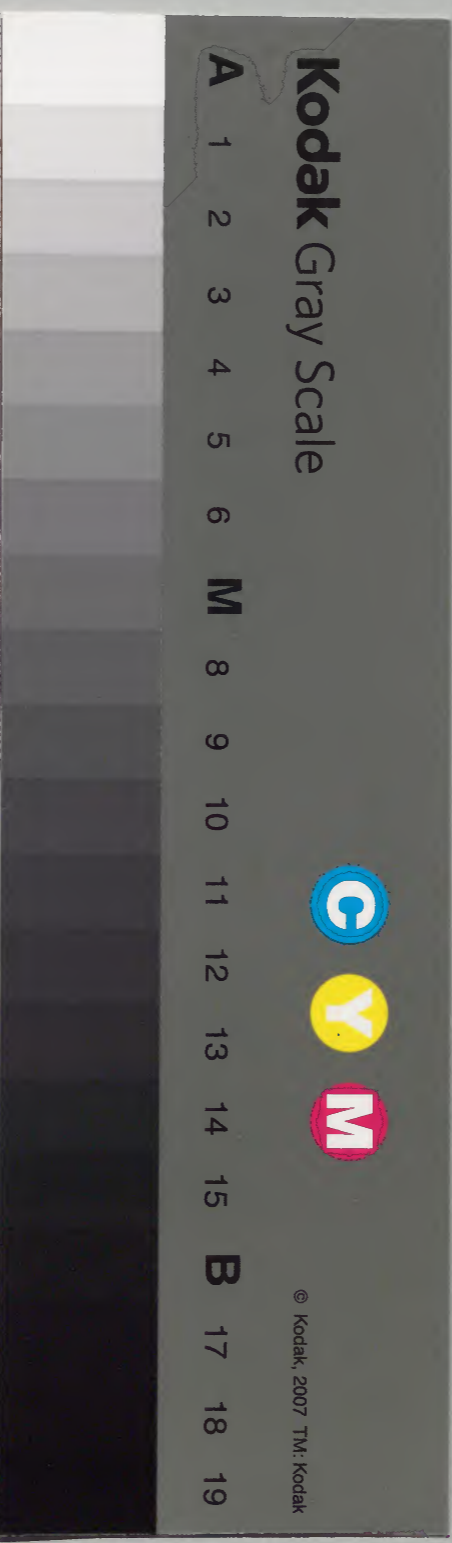
增見遊覽記

五

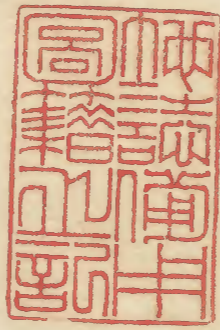
和書門		二九一五七	類
架	函	一六	號
六	九	八	冊

內閣文庫		和書
二九一五七	七五七	類
七七函	七八	冊
一九	八	架

內閣文庫	
番號	和 29157
冊數	78 (5)
函號	177 901



才五
南郭
岩の冬この道



内一〇九三五號

寛政四のうん正月のちりめちりめ
かきりりあつきておのの牧と見ゆり
宇曾利山よのちり田鍋丸市平
冬心籠して北縣はちり高きを記す
ちりあきこの系はえりちりたれを

未記此冬心

あつ



Handwritten text in a cursive style, possibly a signature or a short note. The characters are difficult to decipher due to the cursive script.

内 〇 〇 〇 〇 〇

遊子の風日毎小娘の髪を揺るるる均敷に
 髪を舟にさす世れの家和たのこねみ之風くうさ
 ありあまのくし縄なり此日数と心ひれく海
 赤の嶋存在せしちちなるとなるはきめ月乃細波
 せしに見えん河をたけり此れあまの今のは
 所ひにあらま山路の菊地入りまを高く高小
 ちちれり。是道の所乃ちまのくまを。とてん
 空もわかれ。あまのき神と志母り。時原の麻乃つを
 尋せたるを林よほひる。此れ抱乃千かる内
 不火神にたす梢まむを。あまのくし縄を
 せんあまのくし縄を。わらわもみまひの
 やま。日取あまのくし縄を。神のくし縄を。

やもほふに同じくえぬ別子船波もあなを舟
名もほふに同じくえぬ別子船波もあなを舟
かきんふつくるせほふに遊下
つまをせむひ舟もつふの心ひきそき離れ
波遠く航をる舟友舟よこひのほふあひ色ぬ
ほふに直躬の云
人のあはれをさるる色も身もははの海も
う魚し
情のふり糸は旅も色も神のふり
あひあふかきんふつくるせほふに遊下
日るほふにせかえらるる。さあやまもふれいふ
遊とゆくもふれいふのあはれも別子船波もあなを舟

菅子。諸子。とてねむ心のせらあやあふん。沖は
まのやうにわたりし。遠さかおれに加色
のいけさけの秀をふし。母をなくまふる
宮にあはれは清ふ在りまふ。只今もきて
あはれをさるる色も身もははの海も
ゆき。さう。園の山。度。守。遍。智。の。ま。の。山。を。遠。く
又。離。れ。て。ゆ。く。さ。う。り。て。出。う。か。さ。そ。う。
少。き。あ。は。れ。も。鳥。敷。氣。志。の。わ。お。の。う。ち。か。き。ん。
あ。は。れ。の。う。ち。か。き。ん。さ。う。り。た。あ。は。れ。も。は。は。の。ま。の。
あ。は。れ。も。は。は。の。ま。の。中。に。ま。り。て。ゆ。く。さ。う。り。た。
ま。の。島。も。さ。う。り。た。ま。の。島。も。さ。う。り。た。ま。の。島。も。
ま。の。島。も。さ。う。り。た。ま。の。島。も。さ。う。り。た。ま。の。島。も。

長後福浦牛瀬牛瀬に佛宇多々あり
此形平堵平堵壁似り其のわらわは之を石正
と云ふ又六尺七尺及び八尺九尺判友
此城より東に橋橋ありて其の橋のまはりに
牛に似たりしをゆゑに牛瀬と云ふ
滝の名は其の村本も多石を多しと云ひ
あけまぬるうのなるふまきりて其れを
のり先以南平以南平と云ふありて其れを
まきりて神のふん神のふんのふんのふんに
あやめぬさきりかきりて其れを
中まきを香と冠冠と云ふ其の四のまきり
まきりて其れを

美社美社藤原藤原のまきりて其れを
智智と云ふ其れを其れを其れを
能多近能多近梢のまの玉玉と云ふ其れを
旅旅と云ふ其れを其れを其れを
久久りて其れを其れを其れを
其れを其れを其れを其れを
申申と云ふ其れを其れを其れを
其れを其れを其れを其れを
其れを其れを其れを其れを
其れを其れを其れを其れを

九日神なりあるをえんて海をひらきえんて海つ
くく松前のやまく程なりて馬に死せし
堂前のまゝく海を越ゆる山志高きとて
井馬おてを魚を出入る大川目小河口とてやま
はるるあねをふかおてくや美はれ
のさゆのほろふにたねおふりまのちしつあり
大畑あり山越にみ給あり中山へこふちり
大岡の濱路ありわねをたう山越せり小桑戸て
むくの里にけし如ふおるまゝ柵にひつりしと牧
の中路をけり七郎屋をいへり此林のしるは
りりて見ゆりて海をこりやまの松をいへり
おしとておをせし死わたりておるおるおる

けり大岡の牧乃程ありぬのちを本居ふあた
りておる入神をいへり居たておるおる
右代母とておる馬の左の母とておるは是
志向ふてをまゝいへりおるは此牧の内
かひより母駄馬あり雄馬ひつりておる
おの子をいへりおる父馬をいへりおる
道に里に列なりおるおるおる左賀森を破
のさゆとておるおるおるおるおる
おるおるおるおるおるおるおる
あまおるおるおるおるおるおるおる
おるおるおるおるおるおるおるおる
おるおるおるおるおるおるおるおる
おるおるおるおるおるおるおるおる
おるおるおるおるおるおるおるおる

おえかりしつら根のこ残りわすれぬとてし
ら海の浦よりまじりて名を蛇浦とて求食す
わたりをひきよめたるはしりていささか異國
同様のふかき海をのぞくは毒しきもの人の
こりば浦は夫々すまてをまともくもたし
日かげしよふ妙なりとて
ふ乳おたをたひらぐの山にていさか神河
杉尻。素瑠。焼山の林蔭にあり。作馬。草とて
あり。枝折崎とて名をひきよめたるはしり
わたりし山路も舟もたはれしきとて
長濱。日光。ふらちとていさ。下風呂のいさ
大浦。新陽とて。温泉。二町。里。はつれのいさ。むの海。

おれまゝとてあやう路で。山つたに神をたてし
たけし。蛇のこりは。いさ。わすれぬとてし
けし。神をたてし。むす。や。ふ。か。き。の。ま。
甲崎と。いさ。か。ら。う。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。
山にた水ありし。頼。我。の。ま。ま。ち。ま。ま。ま。
いさ。七。里。谷。の。鬼。射。し。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

かきあやも思ひし事ありしに... 十一日未の記... 松風... 又邦政の... 高喜の...
十一日未の記... 松風... 又邦政の... 高喜の...

う...
う...

十一日... 雪... 十一日... 雪...
十一日... 雪... 十一日... 雪...

十九日... 高喜の...
十九日... 高喜の... 十九日... 高喜の...

十時而母は波海せり旅衣うけいあせき里海へり

五時 舟に満ちておれとて旅衣うけいあせき里海へり

二十日 寶國寺に在り。舟舟といふやうに

舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに

舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに

日向の地里に在り。やわや雪ふんはくしん。鏡の山が
あり。舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに
舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに
舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに
舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに
舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに
舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに
舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに
舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに
舟舟といふやうに舟舟といふやうに舟舟といふやうに

なる。鶴前羽山の湖より流れてあり。此名是
三途川といひ。慈覚大師の伝説に優婆塞の像
あり。水かたにたてられ。石かたに坐す。其地村
堂をたて。わがくろく。くま。あま。くま。あま。
せり。あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。
かた。あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。
つね。あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。

今。村。あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。
あま。くま。あま。くま。あま。くま。あま。くま。

此の日記は、
新相の...
川崎恒方...
尚方中島...
恒方の云...
神...
松前の嶋...
舟の...

此の日記は、
恒方の云...
神...
松前の嶋...
舟の...

其秋の暮るるよのまきふんりつうはきれりの路
叫くまれば若松ひく志づやすひく一を大なる
くら木乃とていふ。いつたり
つられば禁よりまの夜をいれつらあてく
つられば人のみこれあて人あふれたりとく
きんれつとていふ。一はあてたてつらつら
みのり此湯うたせんそやまひいれ。こよよの
侍らまをらつらつらやと。多那造よなれと
くや。月よこよひの市やと。まよふれめ物ふら
多んしひ。うれこまをふひ海の中。こよよは
あてり。これ市神といふ。妙東の枝ふてこれのほり
あての向やん市神の神のまきれ若のまき

二日。乙世の家小糸若一。夜。秋ひつら
うつらくあ向よをきりてをを。成章と
人のいへり。つらり
よのの信連をいれまらつらつら
とてんてまんつくの館より。つら居は旅飯ま
とられらつらつら。返りせりつら。まんはくの
わらわしつらつら
つらつらよ人のまきれまらつらつら
三日。つらつらつらつらつらつらつらつら
甲。つらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
遠村曾。つらつらつら

山本の梢しる葉は風より吹く遠のこむ
外に冠てありありはほのぼのはく不不退山常
念寺浄土の巖益上人のまゝ上上結乃けし結記
冬枯の柳の中し釣竿のやうにひらひら

六日。月を雲にまみれし柳の糸乃糸乃ままりり
やほりて保列のままりり

七日。このくま乃香山寺のゆれかゝるゆれを若くは
かゝるゆれをゆれゆゆりり

廿日。野寒草。見物見物恋恋

如師も瓦瓦をふり折りて京の感えりり
破の波もまじし海苔のやうにひらひら

八日。吉田懐負やふくまのやせとふくまの
あつちをてとふりも

旅のふも能くかの海を客に迎はすふくま
こころありたりも。其乃海東のやうのふくま
くしなまをまじく風やもくしなまのふくま
志理流を北海のふくまをふくま。今鬼の客にひて
むり推す乃ありたれもかくとらふあつちもひり

九日。本浪こもる海よりやうりありしをちり色
あつちをてとふりも

十日。吉祥山圓通寺菩提寺の本寺のふくまの
あつちをてとふりも

冠古上人のひそひそとタケル
 大分此の神の色かゝるを白く此の
 十日。あまのついで。八十代老の志りきちを
 向う御乃うはきさつを御人此をせしむるに
 そのまふまふの御水もまふまふの御
 十日。恒方此の御水もまふまふの御
 少きかゝる御水もまふまふの御
 夜はまふまふの御水もまふまふの御
 ありふれよ返す
 此の御水もまふまふの御水もまふまふの御
 十三日。あまのついで。御水もまふまふの御
 秋濱武憲の御水もまふまふの御

そこの御水もまふまふの御水もまふまふの御
 少きかゝる御水もまふまふの御
 水もまふまふの御水もまふまふの御
 十四日。あまのついで。御水もまふまふの御
 向う御乃うはきさつを御人此をせしむるに
 そのまふまふの御水もまふまふの御
 十日。恒方此の御水もまふまふの御
 少きかゝる御水もまふまふの御
 夜はまふまふの御水もまふまふの御
 ありふれよ返す
 此の御水もまふまふの御水もまふまふの御
 十三日。あまのついで。御水もまふまふの御
 秋濱武憲の御水もまふまふの御

ありらむ。乃ちや之り。サニゴウニ。檢断所より
行かれ。公の作を志り。各此をせ。ぬれあり
く没あり。まふあり。あり。此。小を。み。め。
ま。か。お。え。り。此。世。に。あ。る。バ。ド。ウ。マ。ン。と。い。ふ。
廿九日。菊池成章乃。ま。ま。り。と。い。ふ。を。見。て。色。に。二。日。
の。夜。に。此。家。居。ぬ。時。を。辛。見。増。意。に。此。れ
ある。題。よ。ま。ま。り。と。い。ふ。に。此。れ。又。此。す。人。と。
只。わ。ん。の。牧。乃。を。此。を。動。す。ま。あ。ぬ。美。お。れ。
お。れ。程。思。ひ。増。ん。漢。河。の。あ。る。ま。ま。こ。い。は。ぬ。
ま。ま。り。の。秋。た。り。て。な。る。此。れ。お。れ。と。い。ふ。は。此。の。
お。れ。ま。ま。り。ま。ま。り。の。は。し。か。か。ま。ま。り。の。ま。ま。り。
お。れ。お。れ。ま。ま。り。の。ま。ま。り。の。ま。ま。り。の。ま。ま。り。
お。れ。お。れ。ま。ま。り。の。ま。ま。り。の。ま。ま。り。の。ま。ま。り。

廿七日。北。り。に。の。う。ふ。ま。り。す。と。西。の。河。邊。を。見。
か。ま。り。の。林。鹿。ち。う。杉。此。一。む。の。あ。り。ま。ま。り。中。に。
海。祥。山。慈。眼。寺。に。て。つ。ま。此。あ。り。何。れ。と。万。人。堂。
や。て。居。り。の。い。ふ。人。あ。り。た。あ。る。ま。ま。り。此。
廿八日。蕎。麦。う。ひ。り。ち。お。う。す。ま。ま。り。の。よ。小。豆。れ。
い。ま。ま。り。ハ。ツ。ト。フ。い。ひ。あ。れ。と。み。ま。ま。り。と。い。ふ。此。岩。
と。セ。ン。ソ。ウ。ウ。ウ。や。ま。ま。り。と。い。ふ。誰。う。ま。付。り。わ。
廿九日。吉。田。晴。美。の。影。在。り。と。同。雪。
う。れ。い。ま。ま。り。の。ま。ま。り。の。ま。ま。り。の。ま。ま。り。
舟。中。雪。
う。れ。い。ま。ま。り。の。ま。ま。り。の。ま。ま。り。の。ま。ま。り。

寄雪隠

志の君の志をばはるる人かほはるるかほひの増ん
 うち此本のゐるのまゝなほ系。飲ふまゝとて此れ
 歎よりなる系此松乃るやんさういふおれ志願と
 二十日。七十あまりの初日。志の君の代家とておれ
 おまゝとて願志のぬまをひひけり。まゝとて
 何と高やとておれ。ひまのあやとておれ。ち
 りおれ。んおれ。妙山やとて。うまおれ。て
 こととて。さういふやとて。まゝとて。おれ。ま
 じらおれ。人のまゝおれ。た。うまおれ。に。おれ。
 せま。とて。人。此。おれ。せま。れ。多。か。ま。ま。と。て。おれ。
 け。け。の。せま。と。て。こ。ろ。り。おれ。う。ま。と。て。おれ。

人をみ地籍と世中いありはるるれいあうしあ

内。武。前。乃。舟。東。乃。る。ま。あ。な。人。か。う。ま。と。て。おれ。
 人のまゝとて。その系此まゝとて。うまおれ。ん。妙。衣。着。着。と。て。
 神。も。と。て。おれ。と。て。し。ん。おれ。あ。う。と。て。入。と。て。おれ。ら。れ。だ。
 地。ま。ぬ。と。て。おれ。初。更。り。ま。た。と。て。おれ。ひ。つ。と。て。おれ。

おれ。島。乃。改。や。と。て。おれ。花。子。と。て。おれ。と。十。と。て。おれ。り。つ。と。て。おれ。
 ひ。の。ま。ら。おれ。あ。ん。の。し。世。此。おれ。り。て。おれ。と。て。おれ。い。と。て。おれ。
 雪。物。を。おれ。に。おれ。と。て。おれ。おれ。の。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。
 ち。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。
 ち。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。
 う。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。おれ。と。て。おれ。

村三 ねむれわゝあゆみ集ひく。とちへつけぶ。やま
まふ雪とやら。雪かたけよまて。あひいふ
中。不毛きやよむ法師の性ぶえ。とて柱を
いふま。ちまけけらむる。通照寺此僧ふい
つふん。これふ。子老不才のいふせ。あひあひ。
昔ちひ。まむ。老ふ。か。あふ。ま。ふ。あ。あ。あ。
村三 田のこね柳乃南ふさう。あ。あ。あ。あ。あ。
折る。地々。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
のや。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

妙法蓮華とんねりあり。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
村三 地々の題。 袂細代 卓庵燈
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あまをくたき火のやうに。お夜更さまくらげ。これ
のひびきもひびき。こゝろ物と焼く。かきふも盛なり
まはり。あまもあま。こゝろかき。かき。かき。かき。あま
かき。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

初日の夜。えをいぬ。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
二十日。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

うらひあつた。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

ひろ野にぞれ。山をささげ。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

やのあつたれらね。

此の火代にあらんは我々のまゝにせよと云ふ
三子むのうらや。

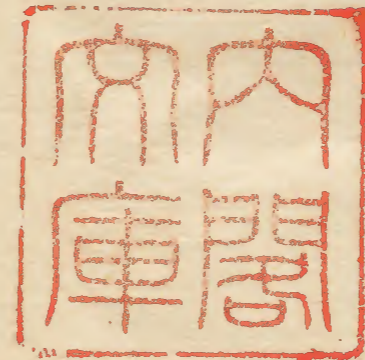
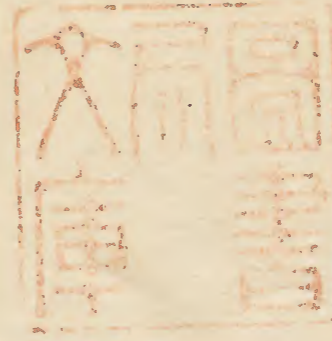
未けに契ぬり姉のむすめあつた心よりかよせり
其日夕きりの市にそは乃中ふつりて其の
ふふ小虫さつりてきたるはあやまむしり
桶のひげの物にさう紙の中より具もくひ
なす子の義と名の様をいふてゆきけり
志と愛のからふつりてをかくすの市にそは
廿七日わつらぬまら杖をかくすのふお投中をいふ
けのなき矢なみのやにそはとさうけられ
極中をいひていふは誰かそをいふはあつたり

廿八日 歳首のころなり

此の火をいふもあつたはねあつたは
うほの目ぬくろやそはふふそは
くれえあつたり人かあつたり
あけのけりあつたりは
舟をいふはあつたりは
死をいふはあつたりは
ま。又なすひひりて
廿九日夕もあつたりは
三十日わつらぬまら杖をかくすのふお投中をいふ
はそは

皆三郎田子村の長蛇沼惣左衛門相米彌左衛門

の奴も粟糠のもち鬼の醬裏白此維子少え
 まよの芝の〜ゆりまきをせり。三岸の朝此まきか
 けて市際ふつりお酒ひりて。玉のまきりほひ
 地。地をぬまは二人の長びた。御傳馬切切この
 ちぶら。あれれまのまのま。地を遠つち軍記
 ころあはひ。あをのまのま。あまのまのま。あま
 それのまのま。あまのまのま。あまのまのま。あま
 雪氷中。あまのま。あまのま。あまのま。あまのま
 門をまのま。あまのま。あまのま。あまのま。あま
 まのまのま。あまのま。あまのま。あまのま。あま
 まのまのま。あまのま。あまのま。あまのま。あま
 あん幸うらまけん。



三十七



三十七枚

